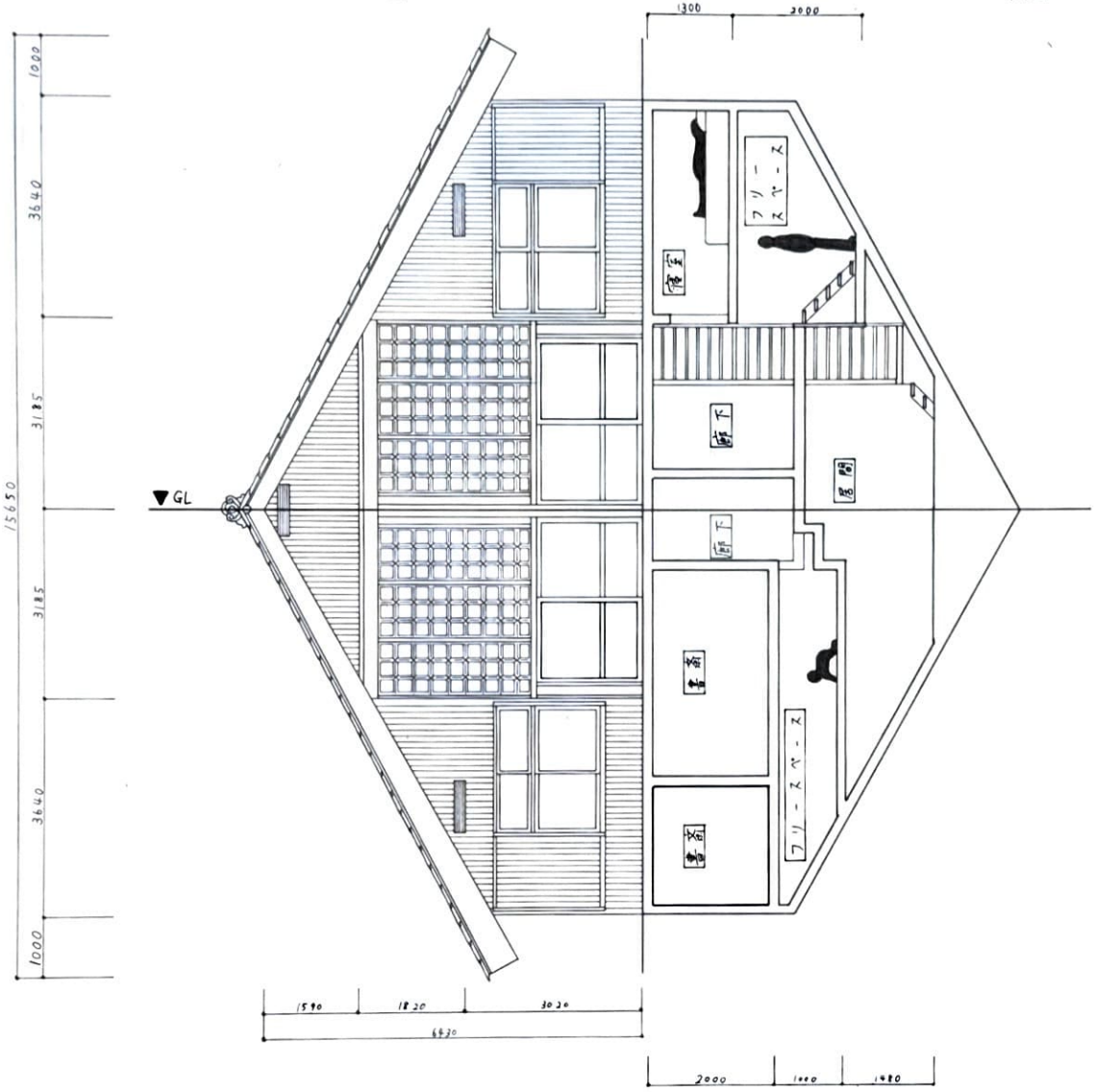
2つの中心 －中心を反転させることで見える世界－

木造モダニズム

モダニズムは古い考えに固執することなく、新たな考えを取り入れることが特徴である。
前川國男邸は、寝室や書斎に見られるように、ガラス戸、明かり障子はそれぞれ独自に戸をつけてボックス状に纏めることで、日本の伝統的な建具にあり勝ちな繊細さを避けた機能的でシンプルな空間を実現することができている。日本特有の木造モダニズムといえる。

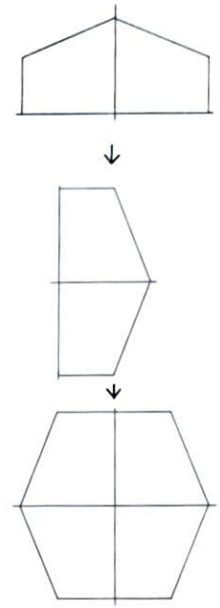
GLとSLの関係

前川國男邸を半分にする線をSLとする。
前川國男邸の外観はこのSLを中心に線対称となっているが、私はこれを各々に対しても線対称であるべきだと考える。この考えだと地下に前川國男邸があるということになる。しかし、地下の外観は見ることができないため、地上に立っている家の形に線対称であるとする。
このように考えることで前川國男邸の見方をひっくりかえすことができる。



断面図　1：60

ダイアグラム



架空世界の構想

この設計では、前川國男邸に習って線対称を増やすことだけでなく、今回のテーマである GLにも着くすようにした。
今回の作品は「住む」をテーマにしたものではなく、「建物」をテーマにしたといえる。つまり私は、前川國男邸の中心はSLではなくGLにすることまた、SLを GLにすることで新たな建築を生み出した。
この建物がもし、異世界の世界にあったとしたら「住む」というテーマが成り立つ。建物を反転させるだけで、住居として成り立つことが難しくなってしまう分、「もし」を考えることで新たな発想がうまれてくる。